

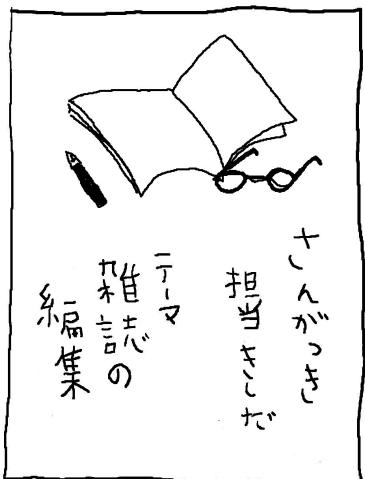


Title	小冊子を編集する
Author(s)	岸田, 智
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 46-47
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/10699
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



阪大に来る以前に音楽雑誌の編集者をしていたという社会人経験を生かして、福井高での今回の授業では、「音楽を聴く」とこのテーマで「小冊子を編集する」。この二つトータルで一一・一二学年あわせて二回の、計9回の授業を担当した。

「音楽を聴く」授業から少し経つた後に担当した「小冊子を編集する」の授業では、編集作業で実際的に用いられる手順や技術を教えるところよりも(これを彼らに教えてもあまり意味がないと思ふ)編集という作業に特有の物事の捉え方、いわば「編集的な思考」というものに触れてもらうことを主眼に置いた。「編集的な思考」がどのようなものかと聞えば、たとえばA、Bとこう相互にあまり関係のなさそうな2つのテーマ群に対し、A・Bを結びつける第3のことこのキーワードやテーマを見つけ出しし、こを差し挟むことでAとBの間に新しい関係を作り出す、そうした思考法のことを考えてくる。具体的に言うと、授業ではまず最初、生徒たちに各自関心があり記事としてまとめてみたいテーマを一つ選んでもらつた(テーマA)。挙がつた

テーマは、音楽、ファッショノ、ペッシュ、お笑い、興味のある仕事、など。次にこれら(講師)サイドから、小冊子全体の共通テーマとして「10代」にして「高校」とこの2つを設定し彼らに投げた(テーマB)。生徒の作業は、共通テーマのどちらかを選択し、先に選んだ自分の関心あるテーマと結びつけて実際の担当ページの企画を練る、といつことになる。

最初のうちは、何をすればいいのかわからないといった様子だったが、何度も説明するうちに彼らなりの企画が生まれてきた。ファッショノをテーマに選んだ生徒は、「福井高校のファッショノ・チェック」という企画を考え、ペッシュを選んだ生徒は、「高校生でも飼える、買える小さくてかわいいペッシュ」とこの企画を、仕事をテーマにした生徒は、「なにたい仕事を見つけるために10代ですべき」と、インタビューアとして聞くとこの企画を作った。冊子の企画を立てること自体、恐らく初めての経験だったらうが、彼らの企画はどれも「編集的な思考」とこのくらいの意図を理解した上で優れたものだつたと思つ。

授業の流れとしては、企画立案後は、生徒1人につき2ページの担当ページを振り分け、企画に沿つての取材、写真撮影、原稿とつまとめ、ページのレイアウト・デザインなどの編集行程の各段階をすべて生徒に任せた。担当ページは最後まで自分で仕上げてもらつ、岸田や他の阪大メンバーが原稿を書き直したり補つたりはしなこと伝えると、次第に田の色が変わり、授業が終わりに近づいた頃には、

休み時間も休憩なしで作業を続ける姿が目立ち始め、時間内に騒いでいる生徒を生徒同士が注意する場面もあって驚かされた。理由は定かでないが、仲間内の

おしゃべりとクラス全体へ向けての発言に、以前ほどの落差がなくなっているようにも感じられた。講師が一方的に話す授業の形式ではなく、個別のアドバイスを中心にしてそれを他の生徒にも聞こえるように行ったことで、生徒同志あるいは生徒と阪大メンバーとの間にある程度の理解が生まれたのかもしれない。

ただ、すべての生徒が自分の企画を記事に組み立てられたわけではない。いい企画を立てた

が取材が実現できず、企画の練り直しの段階に戻つて記事作りを諦めてしまった生徒もいたし、最後までテーマAとテーマBを結びつけることができず、最終回の授業になつてテーマを選び直した生徒もいた。仕上がりのページとし

てうまく形になった生徒もいれば、そうでない生徒もいる。しかしいずれにしろ、そのすべてが、彼らがこの授業期間中に試行錯誤した結果であると考え、小冊子に最終的にまとめるに当たつては、前言通り手直しをせず、彼らの文章とアイディアをそのまま掲載した。いい企画をいいページに仕上げられるに越したことはないが、今回の授業は編集者養成が目的なのではなく、普段の学校の勉強ではあまり使わない思考法を試すことを重視したので、仕上がりが多少不味くともさしたる問題ではないと考えている。それよりも彼らの懸命さを各ページに見たいと個人的には思う。見た目も悪く、文章も読みづらい小冊子だが、それだけに味のあるものが出来上がったのではないだろうか。

(きしださとし)

